

佐用町地域福祉計画 評価委員会 評価のための資料

佐用町は、町民がお互いに助け合い「佐用で暮らしてよかった」と思える地域福祉を推進するため、平成30年3月に「佐用町地域福祉計画」を策定しました。

策定後2年がたち、計画に掲げた理念がどこまで進み、どんな課題があるのかを委員の皆さんの意見をもとに評価します。

評価委員会では次の内容に、皆さんからの忌憚のないご意見をいただきたいと思いますので、あらかじめ、目を通していただけますようお願いいたします。

【1】計画策定時の課題と、取り組み目標の概要

計画の策定には、町民からアンケートを取って実態を把握し、課題を挙げました。浮かび上がった課題に対して、取り組む目標も掲げました。

課題1. 地域団体の高齢化と人材不足

取り組み目標

- ・地域活動が気軽に参加できるよう工夫し、リーダーを育成する。
- ・福祉活動を啓発し、福祉の意識を向上させる。

課題2. 地域社会の連帯意識の希薄化

いざという時のために隣近所との付き合いを大切にしたい(意見)

取り組み目標

- ・支援を必要としているかたがあることを認識し、誰もが参加できる交流の場やボランティアの機会を作る。

課題3. 安心・安全への仕組みづくり

取り組み目標

- ・防災面や防犯に対する地域力を高める
- ・外出しやすい生活環境の整備

課題4. 不安や困りごとの解消に向けた支援の充実

取り組み目標

- ・相談の場の充実と、その周知。

目標から掲げた基本理念

目標を掲げ見えてきた基本理念を、町民一人ひとりが助け合い、支え合う協同の心を持つように

ひと・まち・自然がつむぐ”協生”の輪

としました。

理念に沿って、計画を進めるための4つ基本方針をかかげました。

1. 地域福祉を支える担い手づくり
2. 支え合い、助け合う仕組みづくり
3. 安全・安心に暮らせる環境づくり
4. サービスを適切に受けられる体制づくり

【2】施策を展開して見えてきた課題

計画策定には、4つの基本方針に従って、町の取り組みや町民の役割を考えました。計画を策定して2年間で、町の取り組みに成果があったか、どのような課題が見えてきたかを示します。皆さんの生活や知人との会話の中で、気づいたことをご意見ください。

役場内各課の持つ施策を進めるうえで浮かび上がった事項を記します。

1. 地域福祉を支える担い手づくり

目標 活動の担い手を他人任せにせず、みんなで取り組める環境を作ります

成果

- ・認知症サポーターが5千人に達した
- ・中学生の妊婦体験は将来を考える機会となっている
- ・地域間や世代間の交流が深められた
- ・障がい者や高齢者、認知症患者、自殺や虐待防止、人権擁護意識など、福祉向上への知識を深められた
- ・自治会等が主体的に訓練や研修を開催し、自助共助が浸透している

みえてきた課題

- ・認知症サポーターの活動の場がない
- ・地域や各種団体との連携が必要
- ・学校教育では時間不足で福祉教育にカリキュラムを組みにくい

- ・スタッフ不足、役員の高齢化
- ・研修会の開催回数が少ない。取り組み地域の減少
- ・大人が学ぶ機会が必要。若年層の参加が少ない。新規参加者の開拓が必要
- ・担い手の確保と地域を活性化させる事業が少ない。活動主体の育成事業がない
- ・防災への意識を高めているが、実際の避難行動につながるか分からない
- ・福祉委員、民生児童委員、民生協力員の連携を支援しているが、任意団体やボランティアや、地域団体との連携には手をつけられていない。

2 支え合い、助け合う仕組みづくり

目標 暮らしの身近なところで、相談・交流・活動の場を作ります

成果

- ・日ごろからの声掛けや見守り活動で、声をかけやすい関係が築かれている

みえてきた課題

- ・学校が統合し校区が広がったため、交通立ち番や挨拶運動をするのが難しくなった。
- ・近所間では、虐待などの通告がしにくい
- ・子どもたちに声をかけづらくなった
- ・見守りネットワークの協力機関の意識が不十分
- ・メンバーの固定化、高齢化。リーダー不足で休止や解散団体が多い
- ・子育て関係者以外は関心がない
- ・見守り活動があっても、ネットワーク構築に至っていない
- ・ボランティア団体同士のつながりが薄い
- ・新しい人が社会貢献に意欲を持つ事業が少ない

3 安全・安心に暮らせる環境づくり

目標 若者や子ども達が地域と関わりながら、元気に暮らせる地域をつくります

成果

- ・健康づくりのグループが増加した
- ・健康づくりへの知識や意識が向上している
- ・相談会への参加者が増えて、専門機関へつながっている
- ・学校の体験授業では、児童生徒が自然や文化に親しんだり地域のかたとの交流が深まったりしている。
- ・自治会が自主的に訓練を行っている。災害時要支援者を把握することができた
- ・外出支援サービスを多様な目的で利用する人が増えてきた

みえてきた課題

- ・こころのケアにかかる医師の確保が難しい

- ・生活困窮、育児方針で予防接種を未接種の人がある
- ・気軽に相談できる場所が必要
- ・精神疾患を持つ妊婦や生活能力の低い妊婦が増加している
- ・自分の問題に気が付かない親への支援が困難
- ・個別避難計画作成は全自治会の取り組みになっていない
- ・周りの支援だけでなく、要支援者自身が親族を含めて取り組むことが必要
- ・個別計画が実行性のあるものか分からない。要支援者の避難訓練が行われていない
- ・避難情報が出てもなかなか避難しない
- ・バリアフリー化が困難な施設の対応

4 サービスを適切に受けられる体制づくり

目標 複合的な暮らしの困りごとを、支援に結び付けられる相談体制を整えます

成果

- ・大勢の人が集まる場所では、バリアフリーが進んできた
- ・町の広報メディアを使って、相談窓口の紹介を分かりやすく伝えられるようになった
- ・虐待防止の意識が高まるとともに、早期発見や保健師の相談へつながっている

みえてきた課題

- ・外国人への対応が不十分
- ・庁舎内の案内が不十分
- ・子育ての相談を気軽にできる場所がない
- ・虐待防止のための連携が足りない
- ・自殺対策を理解する人が少ない
- ・8050問題にある人の把握ができていない
- ・生活困窮者の就労意欲を高める機会づくりがない